

「伝える力」を鍛える①

株式会社川原経営総合センター 経営コンサルティング部門 久保田 真紀

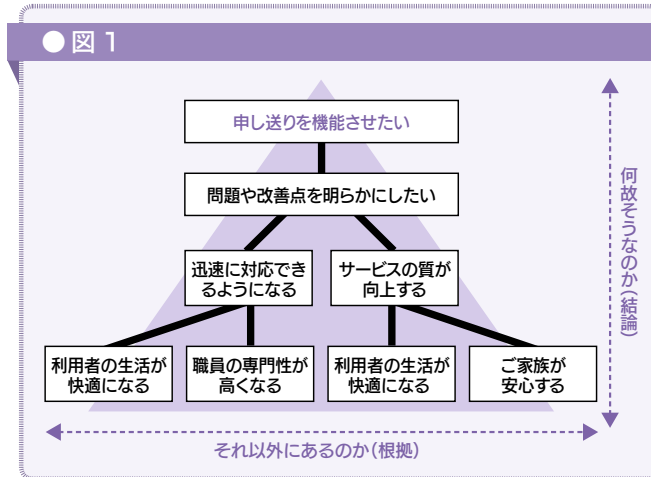
これまで、発せられる言葉や態度から相手が伝えたいことや潜在する思いを感じとっていくための方法や留意点についてご紹介してきました。いよいよ、受け止めた情報を自分なりに考え、思いを伝えていくという段階に入っていくわけですが、この部分がうまくできていないと、せっかく受け止めた情報の意味や真意も十分に理解しあうことができず、お互いの感情が平行線になってしまう、あるいは解釈の違いから誤解が生まれ、関係性が悪くなってしまうというようなことも起こりかねません。

しっかり伝えていくためには、「考えをどのようにまとめるか」と「まとめた考えをどのように伝えていくか」というポイントをしっかりと押さえていくことが大切です。

今回は、「考えをどのようにまとめるか」について、考えを客観的にみつけながら整理していく代表的な方法を2つご紹介します。

垂直思考 (ロジカルシンキング)

理解しにくい事柄や曖昧な事柄を簡素化しわかりやすくすることで、皆で共有しやすくする思考方法です。枠(あるいはピラミッドの型)の一番上に事柄を据え、縦軸で「なぜそうなのか(結論)」、横軸で「それ以外にあるのか(根拠)」という視点を掘り下げていきます(図1)。縦軸は、つながりを意識した整理を行うことで事柄の主旨から逸れないで考えをまとめることができます。また、横軸はできるだけ重複を避けながらもれなく考えていくことを意識することで、説得力のある考えを示すことができます。



点を押さえながら仮説を立て、事柄を広げて考えていきます(図2)。一見とてもよい方法にみえますが、考えが広がる分、どの部分を優先的に取り組んでいくか整理していかなければならないという煩雑さも含んでいます。

どちらの方法もメリットやデメリットがあります。状況を客観的にみて、適切な手法を臨機に選択し活用していくことが大切です。

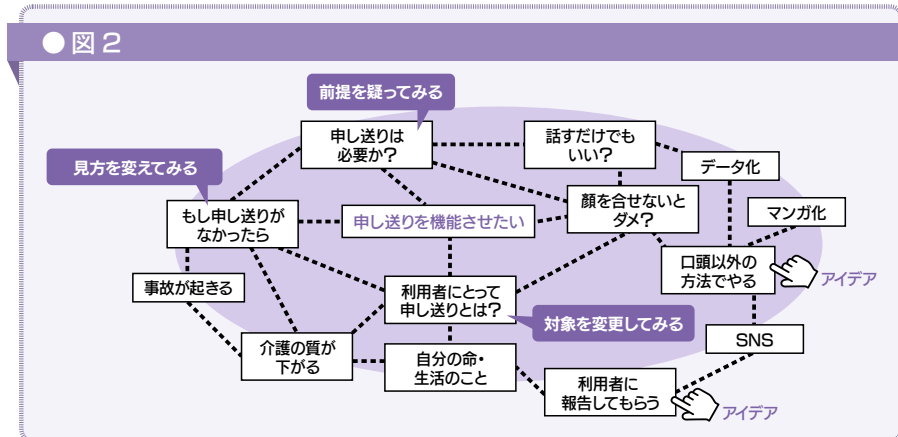
少し難しいと感じられたかもしれませんが、思考は日々のトレーニングで十分養うことができます。その一番の近道は、日々の出来事や情報に対して関心のアンテナを高め考える習慣をつけていくことだと思います。

今回は、「考えをどのようにまとめるか」について、考えを客観的にみつけながら整理していく代表的な方法を2つご紹介します。

今回は、まとめた考えをわかりやすく相手に伝えていくためのポイントについてご紹介します。

水平思考 (ラテラルシンキング)

先にご紹介した垂直思考は、結論に基づきしっかりと深掘りして考えをまとめられる一方で、斬新なアイデアは生まれづらいといった側面があります。これに対して水平思考は、概念や常識に捉われることなくさまざまな視点から事柄を考えてみることで、新しいアイデアを生み出す思考方法です。水平思考のコツはいくつかありますが、「前提を疑ってみる」、「見方を変えてみる」、「対象を変更してみる」の基本的な3つの視



プロフィール
Profile

久保田 真紀 (くぼた まき)

社会福祉士、保育士。都道府県社会福祉協議会にて、法人の経営基盤強化や施設の運営に向けた支援のほか、当事者活動支援、福祉教育にかかわる業務に従事。現在は、(株)川原経営総合センターにて、法人・施設等の設立、運営支援、職場内環境改善に向けた調査分析などに携わる。